



排出事業者によるプラスチック資源循環等に資する取組事例集

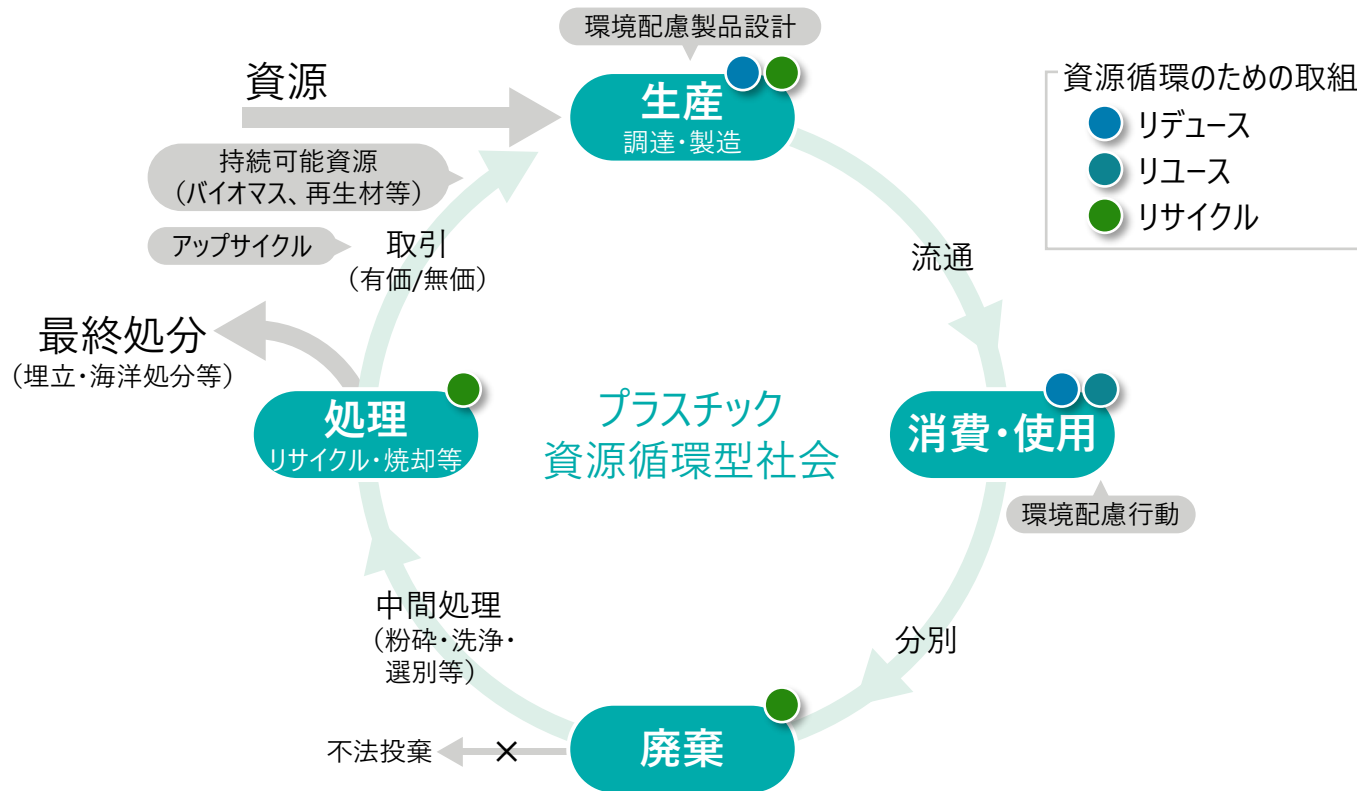
令和6年度プラスチックの資源循環等に係る施策の実態調査等業務

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社

2024年3月

本資料について

政府では、プラスチック資源循環戦略の目標を定めており、その達成に資するプラスチックの排出抑制及び再資源化等の取組が各地で公表されている。また、排出事業者向けの手引き*では、取組むべき優先順位を①排出抑制（リデュース）、②再資源化等としている。本資料は、排出事業者が比較的着手しやすいオフィスビル・事務所等におけるリデュースの取組を中心に、プラスチック資源循環に資する好事例をまとめたものである。



*「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に基づく「排出事業者のプラスチック使用製品産業廃棄物等の排出の抑制及び再資源化等の促進に関する判断の基準の手引き（1.0 版）」（2022年3月）

目次

(1/2)

事業者名	取組分類			対象物品*						頁
	3R	関連フェーズ	その他	容器	包装	ボトル	食器	袋	その他	
テラレムグループ(株)	リデュース、リユース、リサイクル	生産、消費、廃棄、処理	・オフィスプラの回収からマテリアルリサイクルの社会実装を推進	●	●	●	●	●	-	P.5
(株)関電工	リデュース、リユース	消費、廃棄	・DXによるマイボトルの推進 ・ゲーム感覚での行動変容促進	-	-	●	●	-	-	P.6
武田薬品工業(株)	リユース	消費、廃棄	・プラ製リユースカップの社内浸透 ・プラ以外の資源削減	-	-	-	●	-	-	P.7
住友不動産グループ	リデュース、リサイクル	消費、廃棄、処理	・ペットボトルの3分別行動を促すイベント感覚のリサイクルボックス	-	-	●	-	-	-	P.8
コカ・コーラ ボトラーズ ジャパン(株)、三菱地所(株)	リデュース、リサイクル	生産、消費、廃棄、処理	・「ナッジ理論」を活用したリサイクルボックス	-	-	●	-	-	-	P.9
森ビル(株)	リデュース、リサイクル	消費、廃棄、処理	・「ワンウェイプラスチック削減プラン」、「廃棄物の見える化」を実施	●	●	●	●	●	-	P.10
NTT都市開発 グループ	リデュース	生産、消費	・スマホアプリ認証/顔認証 ・リサイクルできる紙製品への代替	-	-	●	-	-	カード	P.11
(株)コナカ	リデュース	生産、消費	・天然繊維100%の土に還る「サステナブルオーダースーツ」の販売	-	-	-	-	-	衣服、蝶キーパー・クリップ	P.12

* [容器]食品容器等、[食器]カトラリー、カップ等、[ボトル]飲料容器、バス容器等、[包装]食品包材、梱包材等、[袋]レジ袋、ゴミ袋等、[その他]日用品（文房具：クリアファイル・クリップ、生活用品：ウェットティッシュ）、衣服、カード等

目次

(2/2)

事業者名	取組分類			対象物品*						頁
	3R	関連フェーズ	その他	容器	包装	ボトル	食器	袋	その他	
(株)ファミリーマート	リデュース、リサイクル	生産、消費、廃棄、処理	・カトラリーの有料化、バイオマス由来や生分解性のプラへの切替	●	●	●	●	●	-	P.13
大和ハウス工業(株)	リデュース、リサイクル	生産、消費、廃棄、処理	・紙製クリアファイルへの代替、使い捨てプラのアメニティの削減等	-	-	-	-	-	海洋プラ、クリアファイル、封筒	P.14
十八親和銀行	リデュース	消費、廃棄、処理	・海洋プラごみをオフィス等向けアート作品へアップサイクル・訴求	-	-	-	-	-	海洋プラ	P.15
総合地球環境学研究所	リデュース、リユース、リサイクル	生産、消費、廃棄、処理	・オフィスプラ対策に係るシンポジウムで基調講演	●	●	●	●	●	-	P.16
イケアグループ	リデュース、リサイクル	生産、消費、廃棄、処理	・単一素材プラスチックの廃止 ・海洋プラを活用した製品の推進	●	●	-	●	●	-	P.17

* [容器]食品容器等、[食器]カトラリー、カップ等、[ボトル]飲料容器、バス容器等、[包装]食品包材、梱包材等、[袋]レジ袋、ゴミ袋等、[その他]日用品（文房具：クリアファイル・クリップ、生活用品：ウェットティッシュ）、衣服、カード等

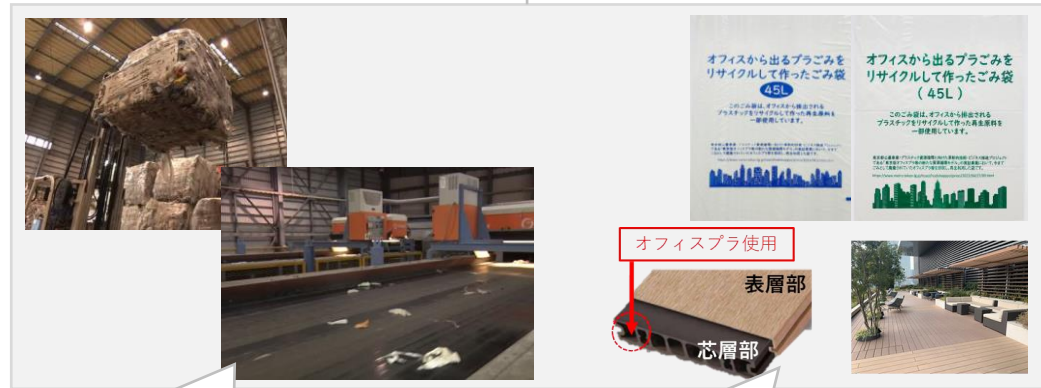
テラレムグループ(株)は、東京都の「東京版オフィスプラ等の新たな資源循環モデル」事業に採択され、オフィスプラの回収からマテリアルリサイクルを行うスキームの社会実装に向けて推進

取組事例：テラレムグループ(株)

事業者名	テラレムグループ(株) 等 (代表事業者：エムエムプラスチック(株))
取組分類	リデュース リユース リサイクル
実施期間	2022～2023年以降
対象場所	施設（オフィス、商業施設等）
対象物品	<ul style="list-style-type: none"> ● オフィスプラ* ● 家庭系プラ等
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>オフィスや商業施設から排出されるプラや家庭系プラ等を回収し、マテリアルリサイクル</u>するプロジェクト ■ 同社らは、<u>1か月間で、約60tのオフィスプラを回収</u>しており、<u>ごみ袋や商業施設のデッキプレートなどの原料</u>にすることで、<u>オフィスtoオフィスのクローズドループ</u>の実現を目指している ■ <u>再生材料の物性測定や再生材料を使用した製品</u>（例：ごみ袋や、ウッドデッキ等）の検討等を行い、オフィスプラ等のマテリアルリサイクルの<u>社会実装</u>を目指す

* オフィス等から排出される廃プラスチックは「オフィスプラ」と呼ばれ、東京23区で年間3万トン（推計）に上る。これらの処理は、焼却かサーマルリサイクルが現在の主流。

東京版オフィスプラ等の新たな資源循環モデル事業のイメージ図



✓ 工場に持ち込まれた大量の「オフィスプラ」をプラの材質に合わせて3種類に選別され、それぞれ原料に加工

✓ ごみ袋やウッドデッキなど、オフィスに戻る循環型製品を製造

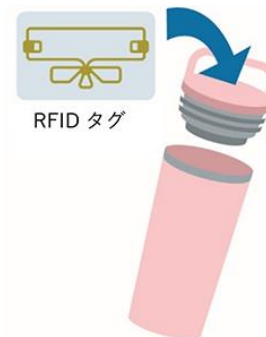
出所：東京都環境局「オフィスにおけるプラスチック資源循環ソリューション」（2024年11月）、J4CE「東京版オフィスプラ等の新たな資源循環モデル」（2023年）、NHK「オフィスの廃プラを製品化再びオフィスへ」（2023年7月）、エム・エム・プラスチック「東京版オフィスプラ等の新たな資源循環モデル 報告書」（2023年2月）、エム・エム・プラスチック「東京版オフィスプラ等の新たな資源循環モデル 報告書」（2024年3月）

(株)関電工は、本社ビルにおいて「K-eCoマイボトルキャンペーン」を展開 ～可視化によるゲーム感覚で楽しみながらCO2排出量削減を推進～

取組事例：(株)関電工

事業者名	(株)関電工 KANDENKO 80 TH おかげさまで80周年
取組分類	リデュース リユース リサイクル
実施期間	2024年10月～
対象場所	本社ビル（オフィス等）
対象物品	● ペットボトル・プラカップ
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専用アプリとRFIDを活用して、参加従業員各自の行動効果を可視化することにより、マイボトルの利用に対する意識変化を促し、継続的利用の定着に繋がるかを検証 ■ 洗浄本数やCO₂削減量を砂漠に樹木や動物が増えるというゲーム感覚と利用回数によるインセンティブを加え、楽しみながら行動変容を促す ■ RFIDタグや可視化の仕組みは(株)サトー、マイボトル洗浄機は象印マホービン(株)の協力を得ている。また、サトーでの実証実験の有効性は、「ごみ」や「環境・SDGs教育」を研究テーマとされている総合地球環境学研究所の教授らの研究グループと共に評価・検証を実施している。

K-eCoマイボトルキャンペーン



ユーザー利用の流れ

1. マイボトルに**RFIDタグ**を搭載して、**個別ID**を付与
2. サトーオフィス内のカフェにRFIDリーダー付きのマイボトル洗浄機を設置
3. ボトル洗浄時に自動でRFIDを読み取り、**洗浄回数**を取得
4. 洗浄回数データをもとに、カフェでのドリンク購入時にマイボトルを利用したと見なし、プラカップ利用削減数からCO₂削減量を算出
5. 専用アプリに、**個人行動履歴**として蓄積され、「**プラカップ削減数**」と「**CO₂削減量**」を可視化
6. **参加者全体**のプラカップ削減数とCO₂削減量が増えるごとに、アプリ画面内の砂漠に森ができ、動物が出現する**イベント**を展開
7. **個人と全体の行動による環境効果を数値と画像で知ることで、マイボトルの利用を促進**する

出所：東京都環境局「オフィスにおけるプラスチック資源循環ソリューション」（2024年11月）、PR TIMES「「マイボトル利用促進プログラム」を関電工が利用開始オフィスに導入しプラごみ削減とCO2排出量削減を推進」（2024年11月）

武田薬品工業(株)では、プラ製リユースカップをオフィスに導入し、浸透させたことで、約6万個の紙コップ（プラ以外の資源）の削減を達成 ※社員の利用所感に大きな変更なし

取組事例：武田薬品工業(株)

事業者名	武田薬品工業(株)
取組分類	<div>リデュース</div> <div>リユース</div> <div>リサイクル</div>
実施期間	2022年7月～現在
対象場所	施設（オフィス等）
対象物品	● カップ
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関係各社による支援のもと、2022年7よりテスト導入した後、11月より全フロアに<u>プラスチック製リユースカップを導入</u> ■ 社員が喫茶に使っていた<u>約6万個/年の紙カップの削減</u>を達成 ■ 導入カップ数やカップのサイズ、洗浄の方法など、<u>運用面での改善</u>を重ね、現在は同社内でのリユースカップの<u>利用が浸透</u> ■ 社員の<u>環境配慮行動に向けた意識や満足度が向上</u>

リユースカップ利用の流れ



導入したリユースカップ



社員としての利用要領

- ✓ 社員は、リユースカップにコーヒー等を入れ、飲み終わると飲料サーバー近くの回収箱に置く
- ✓ 同じビルで営業するカフェテリア業者が使用済みカップを回収して洗浄し、飲料サーバーの脇に戻す
※紙カップがリユースカップに代わっただけで、社員の利用所感に大きな変更なし

住友不動産グループは、これまでオフィスビルで約210t（500mlボトル1050万本相当）の使用済みペットボトルを回収。2023年に、ペットボトル分別行動における実証実験を開始

取組事例：住友不動産グループ

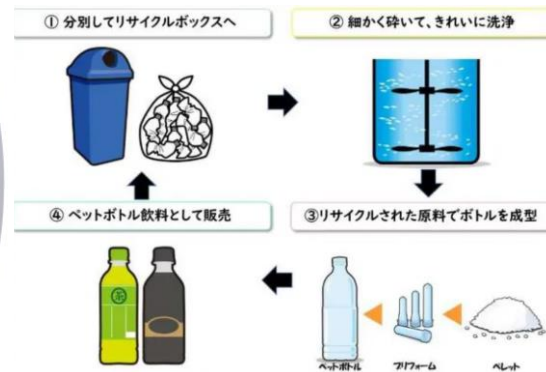
事業者名	住友不動産グループ 等
取組分類	<div>リデュース</div> <div>リユース</div> <div>リサイクル</div>
実施期間	2022～2023年以降
対象場所	施設（オフィス、複合商業施設等）
対象物品	● ペットボトル
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> 住友不動産グループが管理運営する新宿エリアのオフィスビルで約210t（500mlボトル1050万本相当）の使用済みペットボトルを回収し、飲料用ペットボトル原料として再生してきた 複合商業施設内に、リサイクルボックスを設置し、サントリーグループと協働で「ペットボトル分別行動における実証実験」を開始。リサイクルボックスの形状やメッセージで3分別を促し、利用者の反応やヒアリングも行いながら、伝え方を1週間毎に変更。自発的な分別行動につながる要素の有効性を確認する

* 音や光の効果を段階的に検証するため、当初は音・光を使用しない状況で設置
出所：流通ニュース「有明ガーデンでペットボトル分別の実証実験」（2023年7月）

ペットボトルの3分別行動を促すリサイクルボックス



参考）「ボトルtoボトル」のイメージ図



リサイクルボックスの特徴

- ✓ ラベル、キャップ、ボトルそれぞれ専用の回収口を設けて、分別ルールを明示
- ✓ 音や光も活用*し、ラベル→キャップ→ボトルを順に投入する形で誘導。アトラクション感覚で、楽しみながらペットボトルリサイクルに参加できる

コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)と三菱地所(株)は協業し、リサイクルボックスの近くに、直接的または「ナッジ理論」を活用したメッセージを掲出することで分別を促進

取組事例：コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)、三菱地所(株)

事業者名	コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)、三菱地所(株)
取組分類	<div>リデュース</div> <div>リユース</div> <div>リサイクル</div>
実施期間	2022年～2030年
対象場所	施設（オフィス等）
対象物品	● ペットボトル
取組概要	<p>■ オフィスビルで回収した使用済みPETボトルを新たなPETボトル製品に再生する水平リサイクル「ボトルtoボトル」の仕組みを構築し、テナント就業者への分別回収の啓発</p> <p>■ 対象ビル執務室内に設置した回収ボックスで集められた使用済みPETボトルは、粉碎・洗浄などの中間処理を経て、再原料化。再生されたPET原料は、当社各工場にてコカ・コーラ社製品の容器に使用</p>

使用済みPETボトルの適切な分別回収の啓発



- ✓ 自動販売機の上に、「リサイクルしてね」ロゴを掲示
 - ✓ リサイクルボックスには、自発的な行動変容を促す「ナッジ理論」を活用したメッセージを掲出
- ⇒これらにより、**分別を促進**

容器が循環する流れ



* 使用済みPETボトルを回収・リサイクル処理したうえでPETボトルとして再生し、飲料の容器として用いる、水平リサイクル
出所：コカ・コーラ ボトラーズジャパンHP「オフィスビルでの「ボトルtoボトル」を開始」（2022年6月）

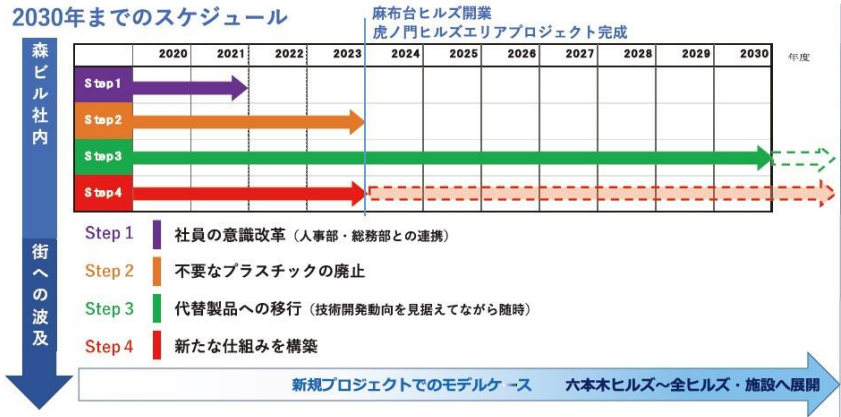
森ビル(株)では、「ワンウェイプラスチック削減プラン」「廃棄物の見える化」を実施

取組事例：森ビル(株)

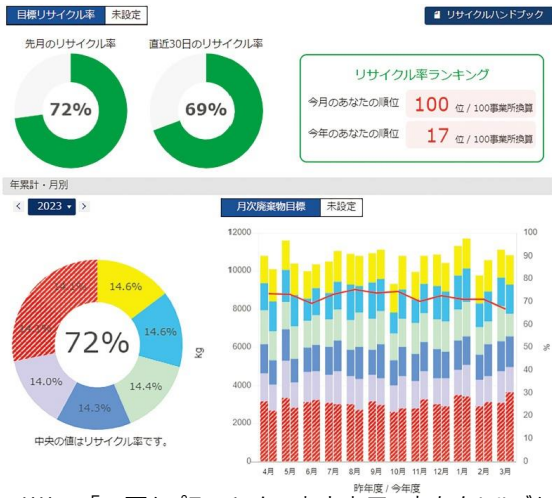
事業者名	森ビル(株)
取組分類	リデュース リユース リサイクル
実施期間	2020～2030年以降
対象場所	直営カフェ・ホテル・会員制レストラン、テナント
対象物品	● ワンウェイプラスチック（ストロー・カトラリー・ショッパーなど） ● ペットボトル
取組概要	<ul style="list-style-type: none">■ 2020年にプラスチック削減計画「森ビル ワンウェイプラスチック削減プラン2030」を策定し、積極的な「脱プラスチック」を推進。同社グループが運営するカフェやホテル、レストランなどの施設で使われるプラスチック製ストローやカトラリーの廃止や紙・木製（一部バイオ製品）・再生プラスチック製への代替を推進。2023年末には、同社が不要とするプラスチックの廃止を実現■ 使用済みペットボトルを水平リサイクル■ 給水スポットの設置によるマイボトル利用促進■ 麻布台ヒルズ・虎ノ門ヒルズステーションタワー等において入居企業・店舗と協働で削減に取り組む「廃棄物の見える化と従量課金」システムを導入

「森ビル ワンウェイプラスチック削減プラン2030」

2030年までのスケジュール



麻布台ヒルズ・虎ノ門ヒルズステーションタワー等：「廃棄物見える化システム」



- ✓ **入居企業、店舗ごとの廃棄物量**がグラフで表示される
- ✓ **リサイクル率のランキング**を確認し、テナント自身が現状と改善すべき点を把握できる
- ⇒ **資源循環の輪を拡大**

出所：日経ESG「森ビル、「脱プラ」契機に資源循環を本格化」（2024年2月）、森ビル社HPプレスリリース「不要なプラスチックの廃止完了、麻布台ヒルズから始まる新たな施策」（2023年10月）

NTT都市開発社の手掛ける新オフィスブランド「owns」の入退室セキュリティシステムは、認証用のプラスチックカードを用いず、スマホアプリによる認証と顔認証システムを採用

取組事例：NTT都市開発株式会社

事業者名	NTT都市開発株式会社
取組分類	リデュース リユース リサイクル
実施期間	2020～2024年
対象場所	施設（オフィス等）
対象物品	<ul style="list-style-type: none"> ● カード ● ペットボトル
取組概要	<p>■ NTT都市開発株式会社の手掛ける新オフィスブランド「owns」平河町ビルの入退室セキュリティシステムは、認証用のプラスチックカードを用いず、スマホアプリによる認証と顔認証システムを採用</p> <p>また、全館で自動販売機を設置せず、ペットボトルを削減</p> <p>■ 2020年3月より、秋葉原UDXビルにおける来客用飲料をペットボトルから紙製品（カートカン）に変更</p> <p>※間伐材や木くずを積極的に活用しており、間伐材利用促進製品等に与えられる「間伐材マーク」の認定を取得</p>

「owns平河町」における脱プラ推進の取組



顔・QR認証端末

スマホ認証端末



1階はカフェが営業。全館で自動販売機を設置せず、ペットボトル削減にも貢献



ownsシリーズは全物件でBELS認定の最高評価を獲得するとともに、「ZEB Ready」認証を取得

出所：NTT都市開発HPプレスリリース「owns（オウズ）平河町」竣工」（2024年10月）、NTT都市開発「サステナビリティレポート」（2020年）

(株)コナカは、自社商品でのプラスチックの削減に向けて、プラスチック資材から紙製へ代替することや天然繊維100%の土に還る「サステナブルオーダースーツ」を開発・販売

取組事例：(株)コナカ

事業者名	(株)コナカ
取組分類	<div>リデュース</div> <div>リユース</div> <div>リサイクル</div>
実施期間	2020年～
対象場所	店舗
対象物品	<ul style="list-style-type: none"> ● 蝶キーパー・クリップ ● オーダースーツ ● オーダーシャツ ● オーダーネクタイ
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ (株)コナカが展開する紳士服は2020年の夏から、ワイシャツを包装する際に型崩れを防ぐ各種資材（蝶キーパー・クリップなど）をプラスチック製から紙製に転換する ■ (株)コナカのオーダースーツブランド「DIFFERENCE」では、天然繊維100%にこだわった（ポリエステルやナイロンなどプラスチックを代替）土に還るスーツ「サステナブルオーダースーツ」を発売し、またスーツに併オーダーシャツ、オーダーネクタイの発売も開始した

(株)コナカでの取組概要

ワイシャツ包装『脱プラスチック』への取組み

従来のプラスチック付属仕上げ



紙付属仕上げ



従来のプラスチック資材



紙製資材



- アパレル業界では襟を立体的な形に保ちために、プラスチックの資材を使用している
- (株)コナカでフレックスジャパン株式会社との協力のもと、紙製資材を開発した

「サステナブルオーダースーツ」の発売



- (株)コナカでは天然繊維を洋服で使用されるプラスチック原料を代替し、洗濯時にマイクロプラスチックの排出がなくなり、環境に配慮したオーダースーツなどを開発し、販売を開始

出所：コナカHP「プラスチック・スマート」キャンペーンに参加ワイシャツ包装『脱プラスチック』への取組みをスタート型崩れを防ぐ資材を紙製に転換します」（2020年3月）、PR TIMES「自然環境に配慮し、地球にも人間にも嬉しいファッションを実現土に還る、環境に配慮したビジネスウェア「サステナブルオーダースーツ」を発売」（2022年3月）







(株)ファミリーマートは、環境に関する中長期的目標「ファミマecoビジョン2050」を策定。カトラリーの有料化、容器・包装の軽量化、バイオマス由来や生分解性のプラへの切替を推進

取組事例：(株)ファミリーマート

事業者名	(株)ファミリーマート
取組分類	<div>リデュース</div> <div>リユース</div> <div>リサイクル</div>
実施期間	2020～2050年
対象場所	店舗
対象物品	<ul style="list-style-type: none"> ● スプーン・フォーク・ストロー、レジ袋 ● 食品包装 ● サラダ・コーヒーフレッシュ・ガムシロップ容器 ● ペットボトル
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ (株)ファミリーマートは、プラスチックの削減を重要な社会的課題であると認識し、プラスチック使用量の削減や環境に配慮したプラ素材（<u>バイオマス由来</u>、<u>再生PET由来</u>、<u>生分解性</u>）への切替等を推進。<u>啓発メッセージ入りのレジ袋</u>を配布。 ■ オリジナル商品の容器や包材において、環境負荷の少ない素材の使用などの取り組みを、「ファミマのエコパケ」と称して積極的に推進 ■ プラスチック使用量の削減を目的に、店頭での<u>プラスチック製スプーン・フォーク・ストロー有料化</u>を2024年1月末から全国の直営店舗約100店にて開始

(株)ファミリーマートの各取組の例

プラスチック製スプーン・フォーク・ストローの有料化

対象品目	価格（税込）	画像
デザート用スプーン 小	4 円	
デザート用スプーン 大	4 円	
スプーン	6 円	
フォーク	6 円	
ストロー	4 円	
曲がるストロー	4 円	

- 有料化の取り組みによりプラスチック使用量は年間で約4トン削減されると予想
- 全国の店舗に拡大された場合、年間で約715t削減される見込

2021年9月から取り扱う軽量化タイプのスプーン

「ファミマのエコパケ」スープの容器本体を紙製に変更



- スープの容器本体を2024年9月から順次紙製に変更。
- 環境に配慮したパッケージ「ファミマのエコパケ」は2020年から数えて第27弾となる
- この取り組みにより合計年間約170tのプラスチックが削減される見込

出所：ファミリーマートHP「プラスチック削減の取り組み」（2024年1月）、「ファミマecoビジョン2050」プラスチック対策に関連した取り組み」（2023年6月）、「プラスチック資源循環促進法にともなうプラスチック削減の取り組みについて」（2022年3月）

大和ハウス工業(株)では、自社オフィスで使用するプラスチック製品の紙製への切替や、使い捨てプラスチックアメニティの削減とマテリアルリサイクルを推進

取組事例：大和ハウス工業(株)

事業者名	大和ハウス工業(株)
取組分類	<div>リデュース</div> <div>リユース</div> <div>リサイクル</div>
実施期間	2020年から継続中
対象場所	オフィス、建設現場、ホテル等
対象物品	<ul style="list-style-type: none"> ● クリアファイル ● 封筒 ● 海洋プラスチック廃棄物
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取引先や顧客へ資料を渡す際などに使うお客様向けの<u>プラスチック製クリアファイルを廃止し、紙製ファイルに切替</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ その一環として、<u>プラスチック素材の手提げ袋や封筒などを廃止し、紙製に切り替える</u>など脱プラ素材の利用を推進 ■ 河川や海岸の清掃活動などの<u>地域共生活動を通じて、海洋プラスチックごみ問題に関する影響"ゼロ"に挑戦し、生物多様性に配慮した企業活動</u>を推進 ■ グループが運営するホテルでは、<u>アメニティバーの導入</u>などを通じて、使い捨てプラスチックアメニティの削減とマテリアルリサイクルを推進

大和ハウス工業(株)の各取り組み例

プラスチック製ファイルを紙製に切り替え



DM封筒（長3ヨコ、角2ヨコ）



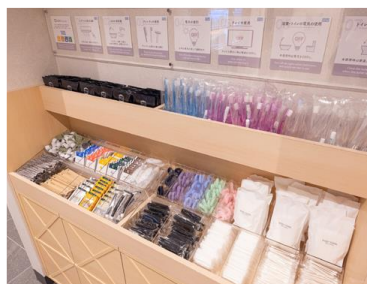
ペーパーバッグ（大・中・小）



紙製手提げ袋

- 使い捨てプラスチック製品のさらなる使用量削減のため、社名ロゴ入りの紙ファイルを採用している（2022年7月から12月末までで、グループ全体でA4サイズ約40万枚、A3サイズ約1.4万枚を制作）

使い捨てプラスチックアメニティの削減とマテリアルリサイクルの推進



（写真上）竹製歯ブラシの採用（西脇ロイヤルホテル；兵庫県）

（写真左）アメニティバー（ラ・ジェント・ホテル京都二条；京都府）

- 当社グループが運営するホテルにおいて、客室へのアメニティ設置を順次廃止。アメニティバーの導入などにより、不要なアメニティの利用を削減。
- 一部ホテルでは竹製歯ブラシなどの代替素材製品の採用や、使用済の製品を回収し、マテリアルリサイクルする取り組みを開始

出所：大和ハウス工業HP「プラスチック製ファイルを紙製に切り替えました」（2023年1月）、サステナビリティレポート2024

十八親和銀行では、海岸に漂着したプラスチックごみを使用したアート作品を制作し、オフィス等に展示することで、リデュースの実施と行動変容に向けた訴求を同時に実施

取組事例：十八親和銀行

事業者名	十八親和銀行 等
取組分類	リデュース リユース リサイクル
実施期間	2021～2030年
対象場所	施設（オフィス、休憩スペース等）
対象物品	● オフィス展示物に使用される海洋プラスチックごみ等
取組概要	<ul style="list-style-type: none">■ <u>オフィスなどにアートで新たな価値を加えるプロジェクトの一環で、長崎市のオフィスに“海プラごみ”を使ったアート作品</u>が展示（アップサイクル）■ 作品が展示されているのは、十八親和銀行本店の休憩スペースと喫煙所■ 株式会社すみなす、HI合同会社、日本たばこ産業株式会社と協働で取り組みを実施■ 作品はすみなすリードの下、佐賀市にあるアート専門の就労支援事業所GENIUSで働くアーティストたちが2ヶ月近くかけて制作

オフィスに新たな価値を加えるプラごみアート



- ✓ アート作品における波の部分には、対馬市の協力のもと対馬の海岸に漂着したプラスチックごみを使用（作品が展示されている十八親和銀行では、対馬をはじめとした長崎県内で行員が海岸の清掃活動に取り組んでいた）
- ✓ テーマは、「BLUE NAGASAKI（ブルーながさき）」。「海のゆたかさをみんなで守っていこう」というメッセージが込められている

出所：十八親和銀行、株式会社すみなす、HI合同会社、日本たばこ産業株式会社が連携の上、本取組事例の情報を提供（2025年2月）

オフィスプラ対策に係るシンポジウム（東京都主催）の基調講演では、環境会話頻度、行動へのトリガーや連鎖、“楽しさ・やりやすさ”を加味した習慣化等を強調

取組事例：総合地球環境学研究所

オフィスプラ対策の第一歩として、地球研の基調講演で示された観点と内容の例

環境問題について話す頻度は、日本人の7割弱が“数週間に1回以下”と回答

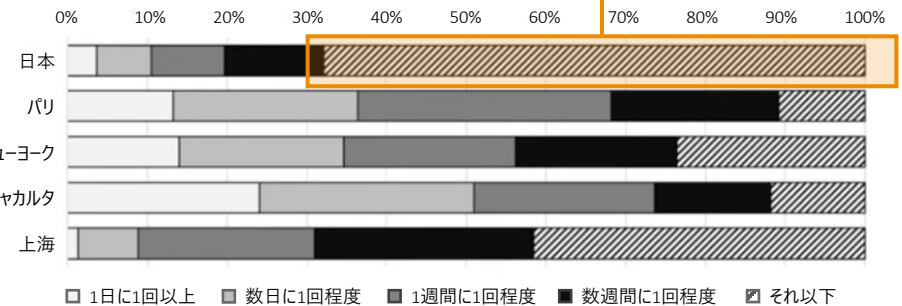
【観点】

多様なスタッフや関係者の声や「おしゃべり」を大切に

【内容】

「おしゃべり等の文化・習慣≡価値観」を高めることの大切さと難しさ

環境問題について家族や友達と話す頻度



行動へのトリガー（きっかけ作り）や連鎖が重要

楽しさや、やりやすさも加味して、習慣化

◆行動啓発「マイボトルダンス」促進の取組



◆「プラの気持ちゲーム」（仮）の開発・効果検証



イケアは、傘下の店舗やレストランで使い捨てプラスチック製品（ストロー、マドラー、皿、コップ、冷凍用ポリ袋、ゴミ袋、食品容器等）を全廃する計画を推進

取組事例：イケアグループ

事業者名	[EU（スウェーデン）] イケアグループ
取組分類	<div>リデュース</div> <div>リユース</div> <div>リサイクル</div>
実施期間	2021～2030年
対象場所	施設（店舗・レストラン）
対象物品	<ul style="list-style-type: none"> ● 使い捨てプラスチック製品（ストロー、マドラー、皿、コップ、冷凍用ポリ袋、ゴミ袋、食品容器等） ● 梱包材 ● 包装
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2020年までに、傘下の店舗やレストランで使い捨てプラスチック製品（ストロー、マドラー、皿、コップ、冷凍用ポリ袋、ゴミ袋、食品容器等）を全廃する計画を発表。2020年1月に、レストランやビストロから単一素材プラスチック製の消耗品の提供を廃止済 ■ 2020年、店舗にダンボールシュレッターを導入し、店舗で使用したダンボールを配送の梱包材として再利用することで、プラスチック製の梱包材の使用を大幅に削減 ■ 2028年までに、消費者向け包装におけるプラスチックの使用を段階的に廃止することを目指す

海洋プラスチックを活用したイケア製品の例



原材料の一部にはスペインの漁師が地中海の網にかかったPET樹脂を回収したものを使用



メーカーとしての製品設計の取組

- ✓ **バージンプラスチックの使用を段階的に廃止し、パッケージにおけるプラスチックの使用を最小限に抑える取り組みを継続**
- ✓ **再生可能な素材やリサイクル素材を使った容器包装の開発**
- ✓ 2030年までに、イケア製品に使用するプラスチックをリサイクルプラスチックまたは再生可能ベースのプラスチックのみにする目標を設定

出所：IKEA HP「IKEA Sustainability Report FY24」（2024年）、IKEA HP「2030年までに、イケア製品に使用するプラスチックをリサイクルプラスチックまたは再生可能ベースのプラスチックのみにする」（2024年）、IKEA HPプレスリリース「イケア、2028年までに消費者向け包装でのプラスチックの使用を段階的に廃止」（2021年11月）、IKEA HP「海洋プラスチックを使用した新コレクション MUSSELBLOMMA/ムツセルプロマを発表」（2021年11月）、CNN「イケア、使い捨てプラスチック一掃へ 店舗とレストランで全廃」（2018年6月）